

2016 年度名古屋大学機器・分析技術研究会 参加報告

○小池 孝侑 機械・金属技術分野

宮 正光, 高柳 充寛 化学・生物技術分野

山田 修一 総合安全・情報管理技術分野

1. はじめに

名古屋大学機器・分析技術研究会が平成 28 年 9 月 8 日, 9 日の 2 日間の日程で開催された。機器・分析技術研究会は全国の大学が持ち回りで開催しており, 機器・分析装置に関連した技術習得や技術研鑽を目的として開催されている。今回は 334 名の参加者となり, 本学からは山田, 宮, 河原, 高柳, 小池の 5 名が参加した。

2. 研修内容

今回の技術研究会では, 特別企画として「技術職員の国際化」と「設備・機器の共用化」が行われ「技術職員の国際化」としてタイのチュラロンコン大学, 中国の東北大学, 南京大学が参加し, 各大学の設備やセンターの紹介があった。その他にも, 秋田大学や名古屋大学の国際交流活動についての紹介があり, 他大学の技術職員の海外での活動についての説明やグローバル化にする上での難点についての発表があった。「設備・機器の共用化」では, 文部科学省 科学技術・学術政策局の中川尚志氏による発表があった。内容は, 大学や公的研究機関の研究施設や装置を内外に開放することによる利点についての発表だった。

特別講演では, 2014 年にノーベル物理学賞を受



図 1 ポスター発表の様子

賞された天野浩博士による「世界を照らす LED」についての講演があった。内容は, 青色 LED 開発までの経歴や青色 LED を用いた応用, これからの研究方針についての講演だった。

ポスター発表および口頭発表では, 走査型電子顕微鏡(SEM)をはじめ, 核磁気共鳴装置(NMR)や X 線構造解析等を用いた研究発表が多く, 主に結晶構造解析に関する内容が多かった。また, 分析装置の管理についても発表があり, 今後の分析装置の管理に参考になるものだった。(図 1)

来年度, 機器・分析技術研究会は長岡での開催であるため, 今回の技術研究会で, 多くの人に周知し, 来年度の参加を呼び掛けてきた。また, 次回開催校として 2017 年度機器・分析技術研究会実行委員長よりプレゼンで長岡の魅力と長岡技術科学大学の紹介を行った。(図 2)

3. おわりに

各大学の研究や国際活動への技術職員の関わり方, 海外の技術職員のあり方について知ることができ有意義な技術研究会であった。今回得た知識を用いて今後の業務に生かせればと思う。また, 来年度の機器・分析技術研究会開催に向けて着々と準備を進める予定である。



図 2 山田実行委員長による次回開催校紹介